

令和4年度(2022年度)学校評価報告書

令和5年3月28日

北海道上磯高等学校長 藤 井 浩 之

1 本年度の重点目標

重点目標

- 1 学習評価及びカリキュラムについて検証し、意欲を引き出す学習指導体制を築く。
- 2 生徒に寄り添い、個々の生徒に自己有用感を育む生徒指導を実践する。
- 3 夢を持たせ、その実現に向け持続的に取り組ませる進路指導を推進する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育活動	【学習指導】 ○観点別評価について研修を実施した。また、各学年での成果発表会や探究発表会などを実施し、学習意欲の向上を図った。 ○ほとんどの教員がBYOD端末を活用し、効果的な活用について研究を進めた。	○日頃から熱心な教育活動していただき感謝している。 ○BYODの学習について、ぜひ有効に活用していただきたい。
改善方策	○総合的な探究の指導計画をもとに研修を実施し、各教科における探究活動を促進する。 ○校内研修を通じて、各教科におけるICT活用の状況を全体へ共有する機会を設ける。	
教育活動	【生徒指導】 ○日常の学校生活を活性化させる取組を進めたが、次年度への課題も残した。 ○校則、学校行事に対する生徒・保護者にアンケートを実施し、校則の見直しを行った。	○国際交流やLGBTQを含めた学習活動があると、社会に出て役立つと思われる。 ○生徒や保護者の意向なども取り入れ、活発な学校生活を送れる学校であってほしい。
改善方策	○生徒会行事に取り組む視点を学校生活の自律に応用できるよう支援する。 ○校則整備について評価・改善の視点を持ち効果的な運用を目指す。	
教育活動	【進路指導】 ○「総合的な探究の時間」や「LHR」を有効に活用し、進路実現に向けた取組を行った。 ○進路実現に向けた学年及び保護者への支援を適切に行った。	○今後の進路実現に向けて、連携を密にし、情報交換していただきたい。
改善方策	○今後も学年と連携して実施していく。 ○今後も継続して、説明会・面談等を実施していく。	
学校運営	【開かれた学校づくり】 ○連絡会議で方向性の共有、早期の課題把握など「協和」実現に向けた具体的な取組を推進しながらも課題を残した。 ○本校からの情報発信や跨線橋壁面再生活動では小中学校と交流を図った。	○小中学校との交流を図り、上磯高校の良さをもっと知ってもらいたい。 ○北斗市主催の子どもが参加するイベント等に参加する機会を増やし、子どもたちにも上磯高校を知ってもらいたい。
改善方策	○本校の行事や取組とのリンク依頼を年度当初から実施し、策定・実施する。	
学校運営	【組織運営】 ○校務の平準化には至らなかったが、実効性ある働き方改革は推進できた。 ○働き方改革を意識し、職員が主体的に取組み、他の職員と協働し、円滑に校務運営を進めることができた。	○学校存続について深刻な問題であると考えている。 ○昔のイメージが強いが、今は違う上磯高校を知ってもらいたい。
改善方策	○数値目標を精査し、人事評価定期面談等で実効感を確認する。	
学校運営	【教員の資質向上】 ○新カリキュラムに係る計画的な研修と個々の研修報告等から、職員の意識を高めることができた。 ○教育情報や社会の動き・課題について職員に情報提供し、高い社会性を有する教員として校務にあたっていた。	○継続して進めていただきたい。
改善方策	○今後も継続・発展させていく。	
公表方法	○学校HPに学校評価報告書、自己評価アンケート・保護者アンケート結果及び学校関係者評価をアップする。 ○PTA総会、四者協議会、学校評議員会等において公表する。	